

戦争と学校② 戦時中の先生・生徒の服装

次の写真は、高等科の生徒の服装です。足にゲートル(すねを守るためズボンの上から巻く布)を巻いていました。戦争非常時の際に、①ズボンの裾が乱れないようにする ②障害物等で足元をけがしないようにする ③長い時間歩く際に血液の流れをよくする ために着用しました。女子は「もんぺ」というズボン型のものを国からすすめられて着用しました。一方、先生方には昭和15年に出された「国民服令」によって、「国民服」の着用がすすめられました。昭和17年以降には、学生や生徒の共通通学服にも指定されました。これは戦争への参加意識を高めるのと同時に、国が貧しくなったため衣服の節約もかねて制服化されています。



もんぺ



ゲートル



姿を消した楠公さん

馬にのっている銅像は、楠木正成です。地元の方は、尊敬と親しみをこめて、「楠公(なんこう)さん」とよんでいます。この銅像は、昭和13年に地元の方の寄付によって校庭に建てられました。お披露目の式には数百人の人々が集まるなど、輝かしい限りで



三代目吉田校長↑ 二代目長谷川校長↑ ↑軍服

です。これほどまでに尊敬されているのは、楠木正成が天皇家に味方して、活躍した英雄だからです。正成は、湊川の戦い(今の神戸市中央区)でも大活躍するなど、兵庫県にも関係が深い人物です。兵庫県の県樹は、クスノキです。そんな楠公さんの銅像も、昭和19年に、国に供出しなければならなくなりました。銅像を溶かして武器に生まれ変わらせるのです。みんなの願いがこめられた楠公さんの銅像がなくなる…いくらお国のためとはいえ、さぞかし残念無念だったことでしょう。

